

http://www.mature-life.jp

住民主体の安全なまちづくり

「予防」活動を特徴とする
WHO「セーフコミュニティ」活動をととして

報告者 白石 陽子
マチュールライフ研究所

http://www.mature-life.jp

報告の流れ

- I. 背景
- II. セーフコミュニティ(SC)とは
- III. SC活動の展開
- IV. 日本におけるSCの取組み
- V. 考察

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 2

http://www.mature-life.jp

I. 背景

- 「Safety(安全)」とは
 - 単に「危険がない状態」ではなく、危険をコントロールできている状態 ⇒ 「危険管理」
 - 出典：WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion
- WHO とSafety (安全)
 - WHOの「すべての人を健康に」戦略
 - 健康の阻害因子を防止
 - 外傷・事故・暴力・災害などは健康を阻害する因子
 - ⇒ 「安全なまちづくり」→「ヘルスプロモーション」
 - ⇒ 「Safe Community」の推進

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 3

http://www.mature-life.jp

II-1. 「セーフコミュニティ(SC)」とは

WHO地域の安全向上のための協働センター(地域CSP協働センター)

外傷や事故など健康の阻害因子を「コミュニティレベル」で予防

↓ 地域住民の主体的な参加

だれもが安心して生活できる安全なまちづくりへの取組み

世界で110のコミュニティがSCとして認証

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 4

II-2. 「セーフコミュニティ」の基準 http://www.mature-life.jp

連携の仕組み

1. 分野の垣根を越えた協働による推進組織がある

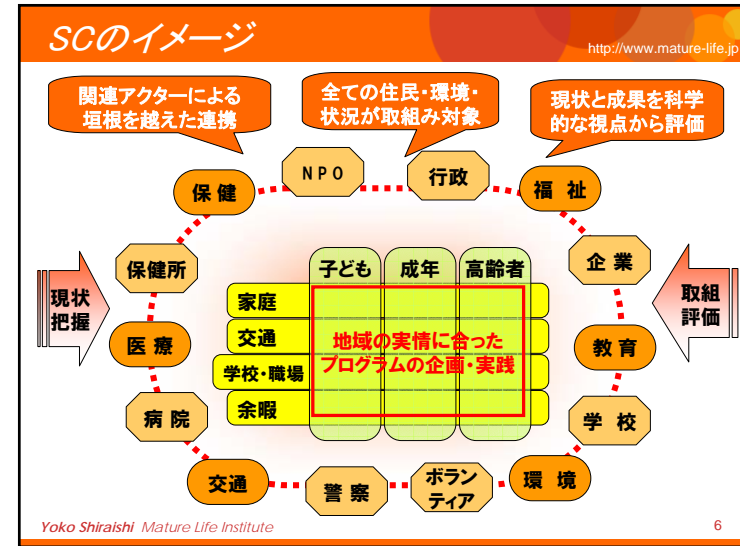
地域の実情にあった継続的なプログラム

2. 全ての年齢、性別、環境、状況をカバーする長期的、継続的なプログラムがある
3. ハイリスクグループと環境に着目し、弱者グループの安全性を高めるプログラムがある

評価の仕組み

4. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムがある
5. プログラム、プロセス、実践の効果をアセスメントする評価基準がある
6. 国内および国際的なSCネットワークへ継続的に参加している

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 5



II-3. SCプログラムの例 http://www.mature-life.jp

	子ども (0-14)	青年 (15-24)	成人 (25-64)	高齢者 (65以上)	
環境	家庭	風呂での溺水、やけど	やけど	火事、転倒	階段からの転倒
	交通	登下校の事故	自転車事故	バイク・自動車事故	歩行中の転倒
	学校	学校での事故やケガ	学校での事故やケガ		
	職場		バイト先の事故	職場での事故	作業中のケガ
	余暇・スポーツ	公園でのケガ、プールでの溺水	運動中のケガ	レジャーの事故	

+

自殺	いじめ	いじめ	うつ	うつ
暴力(DV含む)	児童虐待	DV	DV	老人虐待
その他	自然災害、火災、台風 など			

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 7

III-1. SC活動モデルの形成 http://www.mature-life.jp

1970年代(スウェーデンのファルショッピング) 外傷予防プログラム(FAPP)

3年で外傷が約30%減少

WHOによる「ヘルスプロモーション」 外傷予防の必要性

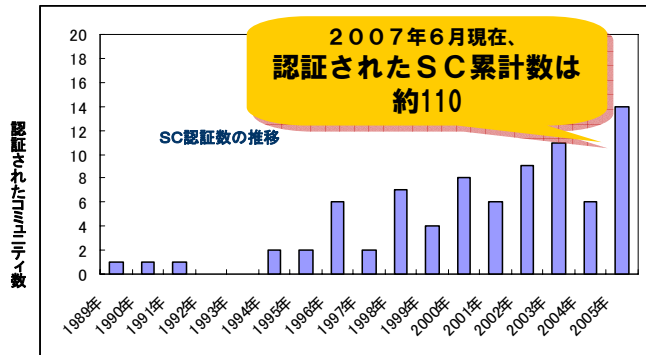
1989年～「セーフコミュニティ」活動を開始

- WHOとカロリンスカ研究所(医科大学)による地域の安全向上のための協働センターを設置
- SCの認証制度を開始

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 8

III-2. SC活動の展開

http://www.mature-life.jp



- 近年では、アジア地域でSC活動が活発に

Yoko Shiraishi Mature Life Institute

9

IV-1. 日本におけるSC活動

http://www.mature-life.jp

- 日本で、SCに認証された自治体はない
⇒各分野での安全政策により高い安全性を確保
⇒一方で、近年では、SCへの関心が高まる傾向

- 京都府はSC活動を積極的に導入・展開

- 3つの「メリット」を提示

地域の安全
の向上

医療等費用
の軽減

地域コミュニ
ティの再生

⇒ 亀岡市でのSC活動をモデル事業に設定

- 亀岡市の取り組みで得たノウハウを他の自治体に

Yoko Shiraishi Mature Life Institute

10

IV-2 亀岡市(人口約10万人)の概要

http://www.mature-life.jp

- 都市に近い(京都、大阪)、アクセスが良い
 - 進むベッドタウン化 ● 多い交通量
- 豊かな自然
 - 保津川、山...→自然災害

- 「人と人とのつながり」の重視
- 地域の実情にあった「安全なまちづくり」

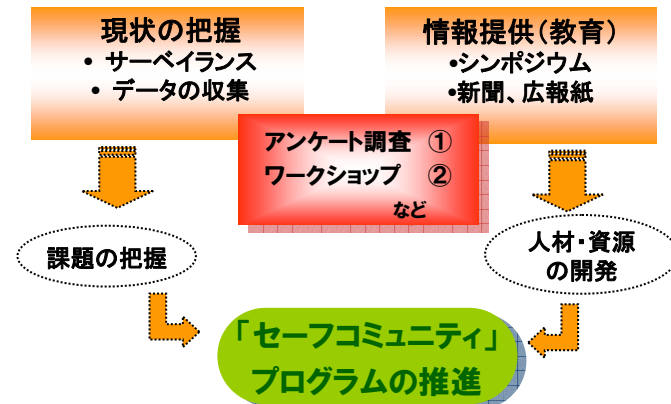
「セーフコミュニティ」への取り組み

Yoko Shiraishi Mature Life Institute

11

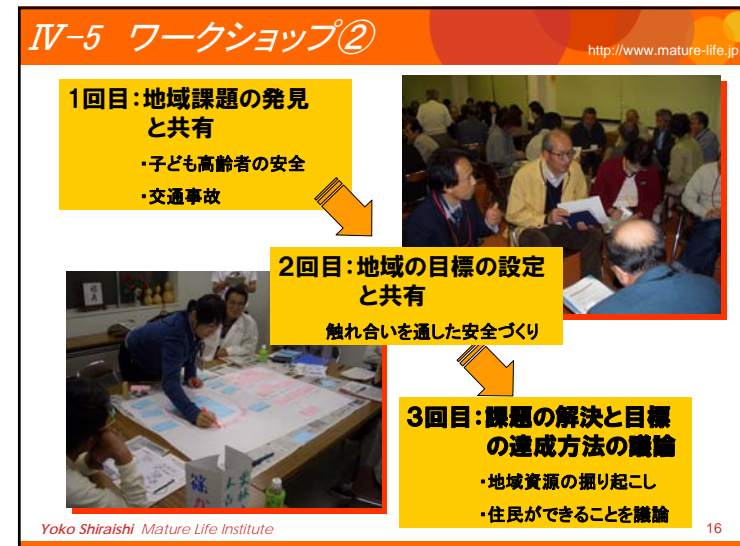
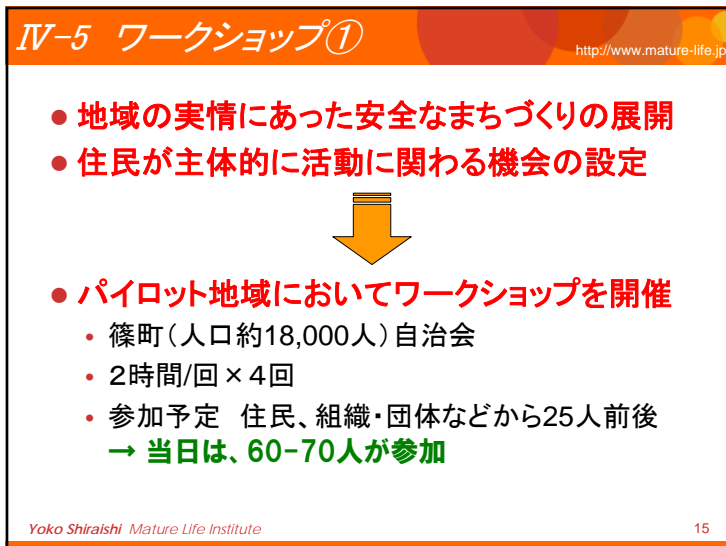
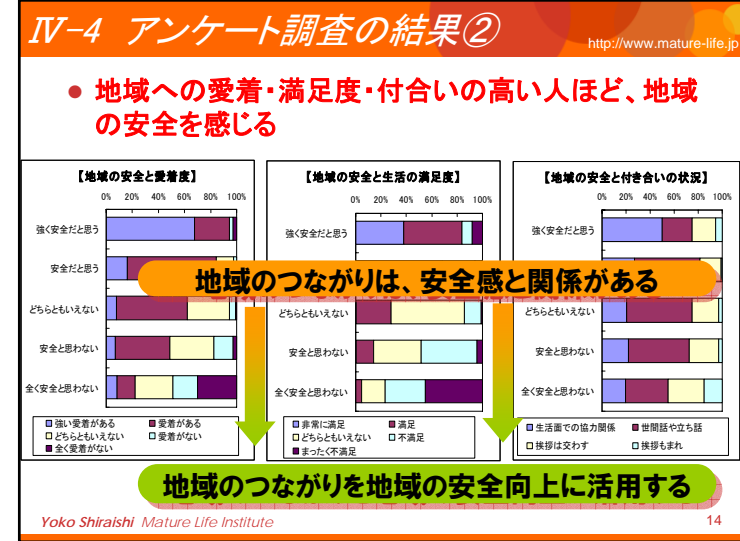
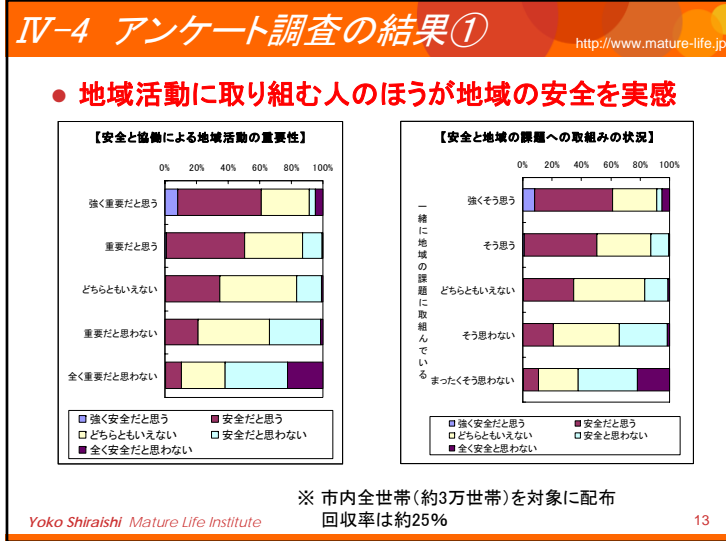
IV-3 亀岡市の取組み状況

http://www.mature-life.jp



Yoko Shiraishi Mature Life Institute

12



IV-5 ワークショップの結果 <http://www.mature-life.jp>

- **住民が地域の安全について考える**
⇒地域の課題・目標を把握し、共有する
例) 交通事故、自然災害、高齢者・子どもの安全
- **安全向上のために何が必要かを考える**
⇒安全向上の方策について考える
例) 暗い夜道の安全確保、災害時の高齢者安否確認

↓

自分たちが何をすべきか、
何ができるかを考える
地域や個人レベルでできることを認識
例) 門灯の点灯、安全見守り隊が高齢者安否確認

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 17

V-1 考察 <http://www.mature-life.jp>

- **SCが世界的に普及する要因**
 - ① 取組みのガイドライン(指標)の簡潔さ
 - ② 地域の実情に応じた課題と目標の設定
 - ③ 多額な費用を必要としない
 - ④ 科学的な根拠に基づいた分析によるプログラムの評価、改善 ⇒ 「PDCAサイクル」

↓

コミュニティは、それぞれの実情に合わせて
SC活動を推進することが可能

⇒日本は、日本のコンテキストで取り組む

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 18

V-2 考察 <http://www.mature-life.jp>

- **日本における安全向上の取組み**
 - ・ 行政などの安全政策によって基本的安全はかなり整備されている
 - ・ 分野ごとに安全政策が推進されている
 - ・ 地域の実情に応じた「地域レベル」の安全向上の必要性

↓

SCによる包括的な展開・客観的な評価

地域の連携による
安全への取組み体制

取組みへの客観的
評価の仕組み

↓

効果的な地域の安全向上の取組みの可能性

Yoko Shiraishi Mature Life Institute 19

<http://www.mature-life.jp>

ご清聴ありがとうございました

マチュールライフ研究所
白石 陽子
yokomature@cyberoz.net